

【緑地を楽しむ本】

『オオサンショウウオ』

福田幸広 写真 ゆうきえつこ ぶん

そうえん社



表紙の、どこにあるかわからないような、愛らしい小さな瞳のオオサンショウウオの顔にまず和みます。が、被写体になっているのは、1メー

トルほどの大きさのオスのオオサンショウウオで、カバー裏にほぼ実物大の写真があります。川の中で出会ったら、ラッキーなのでしょうがギョッとしますね、きっと。現在までの最大の記録は全長150.5センチメートル、44.3キログラムにもなる世界最大の両生類、生態はまだよく解明されていないとのことですが、その産卵から巣立ちまでを写真で追っています。

日頃はじっとほとんど動かずに、週に一匹ほど近くを泳ぐ魚を食べて暮らしているようですが、夏至のころから、産卵のためのすあなを求めて数キロも、時には1か月もかけて移動します。そこでメスを待ち、産卵が終わると3月の終わり、春先にちびオオサンショウウオが巣立つまで、オスがつきっきりで守り続けるそうです。その間には、死んで腐った卵を処理したり、生まれた子どもを魚と間違えてパクツとしたり・・・。

根気よくとらえた写真が特別天然記念物オオサンショウウオを身近に感じさせてくれます。

(遠藤)